

2022 年度統計関連学会連合第 2 回理事会・組織委員会 議事録

日 時：2022 年 9 月 8 日（木）15:30 – 17:00

場 所：ハイブリッドにより実施（成蹊大学 10 号館 2 階大会議室（予定） + Zoom）

出席者：

【2022 年度学会連合理事】

応用統計学会 瀬尾 隆，渡辺 美智子（委任状）

日本計算機統計学会 小木しのぶ，山本義郎

日本計量生物学会 松井茂之，寒水孝司

日本行動計量学会 狩野 裕，岩崎 学

日本統計学会 樋口知之（理事長），大森裕浩

日本分類学会 宿久 洋，富田 誠

【連合大会実行委員会】 小森 理（2022），西山慶彦（2023）

【連合大会運営委員会】 飯塚誠也（2022），竹内光悦（2023）

【連合大会プログラム委員会】 黒田正博（2022），橋口博樹（2023）

【JJSD 編集委員長】 青嶋 誠

幹事 阿部貴行，大草孝介，本橋永至

組織委員会・審議事項

0. 前回議事録の確認

前回の組織委員会の議事録が確認された。

1. 2023 年度連合大会各委員長について

- ・ 実行委員長に西山慶彦氏（京都大学），運営委員長に竹内光悦氏（実践女子大学），プログラム委員長に橋口博樹氏（東京理科大学）とすることが提案され承認された。なお，2023 年度統計関連学会連合大会の開催場所および実行委員長については，第 1 回連合理事会の審議にて 4 月 23 日に承認されている点を付記する。
- ・ 運営副委員長およびプログラム副委員長については，各委員長と協議しながら，次回の連合理事会・組織委員会までに候補を選定する。

2. 2023 年度連合大会開催日時・場所，ならびに運営方針について

- ・ 西山 2023 年度実行委員長より，京都大学吉田キャンパス（京都府京都市）にて，9 月 3 日（日）をチュートリアル・市民講演，9 月 4 日（月）～9 月 7 日（木）を本大会としたい旨が提案され，承認された。ハイブリッド型の開催方法を検討している旨が報告された。

組織委員会・報告事項

1. 2022 年度連合大会報告

- (1) 小森実行委員長より、今年は初の完全ハイブリッド型による連合大会の開催であったが、特に大きな問題はなく、滞りなく終了した旨の報告があった。次の点が報告された。
 - ・ 開催校である成蹊大学から大教室を含む多数の教室および遠隔講義用システムの提供がなされ、スムーズな大会運営を行うことができた。
 - ・ 完全ハイブリッド開催に伴い、いくつかの講演において音声トラブルが生じた。
 - ・ 今大会での収穫と課題については、小森実行委員長が書面にまとめ、2023 年度の西山実行委員長に引き継ぎを行う。

- (2) 黒田プログラム委員長より、以下の報告があった。
 - ・ チュートリアルセッション、市民講演会およびプレナリーセッションの登録者数は、それぞれ 271 名、166 名および 273 名であった。
 - ・ 一般セッションは 28（発表数：159）、企画セッション（デモセッションを除く）は 28（発表数：104）、コンペセッションは 6（発表数：35）、プレナリーセッション 1（発表数：1）、特別企画セッション 1（発表数：1）であった。
 - ・ 成蹊大学の遠隔講義システムを利用でき、プログラム編成およびセッション管理を効率的に行えた。
 - ・ 今年も、コンペセッションへの参加資格のない申し込みが 6 件あった。申込み時までに統計関連学会連合の 6 学会いずれかへの入会が条件であり、周知が必要である。
 - ・ 講演申込み時と予稿提出時で演題タイトルが異なるものが散見された。申込時のタイトルは修正不可である点は HP に明記されており周知が必要である。
 - ・ 業者からの予稿集初稿に誤記が多数みられた。次年度は改善を求めたほうがよい。

- (3) 飯塚運営委員長より、以下の報告があった。
 - ・ 大会登録者数 899 名（事前 700 名程度）、招待者 57 名、チュートリアルも含めた大会全体の参加者数は合計 968 名（現地受付：393 名、オンライン受付：575 名）であった。完全オンライン登録としたため、早期の申込みが多く全体の参加者数を早期に把握できた。
 - ・ 現地受付を、2020 年度大会で準備していた QR コードによる受付に変更した。現金の取り扱い、手動チェックおよび受付のための大部屋がすべて不要となり、受付業務の大幅な負担減となった。
 - ・ 大会中も参加登録を可能としたため、大会運営と並行して対応業務が必要であった。
 - ・ 協賛では、現地のブース展示およびセッション切り替え時の映写による協賛を行った。ハイブリッド開催では現地参加者数が減少するため、協賛ブースの運営方法には工夫が必要である。また次回の理事会において、協賛企業の大会への参加ルールについて議論する予定である。
 - ・ 保育室補助について、活用促進のための周知が重要である。
 - ・ 成蹊大学の音響システムを活用したため、業者へのハイブリッド開催に伴う機材準備の委託が不要となり大幅な予算減となった。将来の大会でシステムが活用できない場合は追加予算が必要となる。

本年は初の完全ハイブリッド型による連合大会を実施することができた。運営に携わった 3 委員

長・副委員長，実行委員会ならびに各委員会委員の貢献に対して，組織委員会全体から謝意が述べられた。

連合理事会・審議事項

1. 統計質保証推進協会からの業務委託

樋口理事長より，昨年に続き本年度も，統計質保証推進協会と統計関連学会連合の間で契約が締結され，60万円が協会から連合に支払われ，それを種々の事業の原資にしたい旨が提案され承認された。

2. 2024年度連合大会の開催場所

- ・ 2024年度の連合大会の開催地（および実行委員長）について意見交換が行われ，提案がある理事は連合理事長に連絡するよう周知された。候補者への打診は連合理事長から行う。

3. 統計関連学会連合の体制整備について

- ・ 樋口理事長より，欧文ジャーナル委員会は事業委員会の下に設置し，広報委員会は連合理事会の下に設置するように規定および組織図の記載整備を行う旨が提案され承認された。
- ・ 樋口理事長より，事業委員会の役割・業務として，従来の JJSD に関わる（出版以外の）業務に加えて，日本数学会および日本応用数理学会との主催の「異分野異業種研究交流会」運営委員会への出席，日本学術会議分科会への代理出席，ダイバーシティ推進の検討などを加えたい旨の提案があり承認された。次期に各学会から事業委員会委員を新たに選出する。

4. JJSD 編集委員長について

- ・ 樋口理事長より，JJSD が安定運用フェーズに入ったため，青嶋編集委員長より編集委員長交代の申し出および今後の交代手順についての提案があったことが報告された。青嶋編集委員長より JJSD の現状や背景などの説明がなされた。樋口理事長より，今後は JJSD 編集委員長の任期は3年間（再任なし）とし，現編集委員長が後任編集委員長を連合理事長に推薦し，連合理事長が候補者から内諾を得て連合理事会で承認を得るとする旨の提案があり承認された。
- ・ 樋口理事長より，次期編集委員長として増田弘毅氏（九州大学／東京大学）が提案され承認された。
- ・ 今後，青嶋編集委員長から増田次期編集委員長へ引き継ぎを10月末までに行い編集委員長の交代を行う。次回の連合理事会において，新編集委員長が編集委員会の新体制に関する方針を説明する。
- ・ 次期の連合理事会発足（2023年4月）までに，新編集委員長の下で新たな Coordinating Editor (CE) および Associate Editor (AE) を選出する。なお，現在の CE15名のうち5名は編集委員長推薦および連合選出であり，残りは各学会に選出を依頼する。AEの選出も各学会に依頼する（昨年末に任命された21名の女性のAEは継続とする）。次期連合理事会発足時から，新編集委員会が JJSD の編集を担当する。

JJSD は青嶋編集委員長の多大なる尽力により，2018年の出版開始から良好な雑誌評価指標の結果を残し昨年には IF 取得の前段階である ESCI (Emerging Sources Citation Index) への掲載を達成した。連合理事会全体から青嶋編集委員長に対して謝意が述べられた。

5. オンライン配信コンテンツの録画について

- ・ 樋口理事長より、連合大会中の JJSD セッションの録画コンテンツを日本統計学会会員に対して無料で配信したいとの日本統計学会からの申請（講演者からは許諾取得済み）が提案され、審議の結果、承認された。なお、日本統計学会は動画配信プラットフォームの整備を完了している。
- ・ 小木理事から講演の一部を無料提供することは、統計関連学会連合大会の宣伝としても有益であるとのコメントがあった。
- ・ 著作権などが存在するため、今後も連合大会中の講演のオンライン配信については、個別に理事会に提案し審議することが確認された。

会議後記録：樋口理事長より、JJSD セッションと同様に、連合大会における各学会の企画セッションについても各学会から要望があれば、各学会会員に対して無料で配信することを許可したい旨の提案があり、メール審議の結果、承認された。

6. 日本学術会議での議論について

- ・ 樋口理事長より、日本学術会議「未来の学術振興構想」の策定に向けた「学術の中長期研究戦略」の公募に関して、統計関連学会連合としては日本学術会議数理科学委員会数理統計学分科会に意見をまとめて頂く旨の提案があり承認された。

7. その他

- ・ 樋口理事長より、10月中を目途に、各学会から連合大会運営委員およびプログラム委員を選出頂きたい旨の依頼があった。

連合理事会・報告事項

1. JJSD の現状について

青嶋編集委員長より、審議事項の際に報告された JJSD の現状以外の情報として、2024 年 6 月号の企画に関する情報が共有された。

2. 共催・協賛・後援

樋口理事長より、前回理事会から本日までに、次の事業・会議に後援・協賛したことが報告された。

- ・ 「数学・数理科学専攻若手研究者のための異分野異業種研究交流会」に関する覚書の締結（日本数学会、日本応用数理学会、統計関連学会連合）、2022 年 7 月 30 日。

次回連合大会組織委員会及び統計関連学会連合理事会：

2022 年 12 月中旬～下旬にオンラインで開催予定